



建交労第 19 回定期大会を群馬県で開催！ 改憲阻止と強大な建交労で要求前進を確認

建交労は第 19 回定期大会を 9 月 2 日～4 日に群馬県安中市磯部において開催しました。

大会には代議員をはじめ全体で 200 人余が参加、神奈川県本部からは斎藤健人代議員と伊藤東一特別代議員が参加しました。

足立浩副委員長の開会挨拶ではじまった大会は、角田季代子中央執行委員長が主催者挨拶で、安倍暴走政治の巨悪を告発するとともに安倍政治を許さない国民的なたたかひの広がりや野党共闘の前進をはじめ、格差と貧困の是正や核兵器禁止・廃絶に向けた日本と世界諸国民のたたかひの発展などに触れながら、建交労が自らの存在意義を発揮する重要な局面に置かれていることを明らかにし、時代の要請に応えるべく全国のなかまの奮闘を呼びかけました。

来賓の皆さんからも安倍政権打倒と全労連・建交労をはじめとする労働組合運動に求められる役割と真価の発揮が強調されると同時に建交労への期待が熱く語られて、建交労の参加者全体を激励していただきました。

※以下は来賓の方々です。(初日)、全労連・野村幸裕副議長、交運共闘・沖原勝治副議長、全国トンネルじん肺根絶訴訟団・水口洋介事務局長、日本共産党・本村伸子衆議院議員、(2日目)生公連・古澤一雄事務局次長、(3日目)小池純一顧問弁護士

大会はその後、「戦争国家づくりの安倍改憲を必ず阻止しよう！ 強大な建交労を実現し、全ての要求闘争を前進させよう」のスローガンを掲げた運動方針案をはじめ

秋季年末闘争方針案などを廣瀬肇書記長が提起し、会計決算報告と財政方針を鈴木正明書記次長が提起をして討論に入りました。

3 日間の討論をつうじて建交労の存在意義と建交労がはたすべき役割がより鮮明となった第 19 回定期大会は、運動方針案などの議案を満場一致で採択（スト権は 99%の賛成で確立）し、相木伸之副委員長の閉会挨拶につづく角田委員長の発声による団結ガンバロウ三唱で全日程を終了し成功裏に閉会しました。



主催者挨拶を行なう角田中央執行委員長



角田委員長の発声で団結ガンバロウを三唱

神奈川からは齋藤健人代議員が討論に参加

3日間の討論では、全体で72人のなかま（7人の特別報告と職場・業種・地域・階層から65人の一般発言）から大会方針を豊かに発展させる発言がつづきました。

そのなかで神奈川県本部からは齋藤健人代議員が討論に参加、春闘・一時金闘争での積極的な到達点と課題をはじめ、組織拡大の展望と学習活動の強化など神奈川県南支部のこの間のたたかひの経過と今後の闘争方向について、中央本部が提起した大会方針に沿う積極的な発言で大会成功に貢献しました。



積極的な発言で討論に参加する齋藤代議員

神奈川ダンプ支部は組織拡大最優秀賞受賞

大会最終日に行われた各分野での表彰式の最初に行われた組織拡大の分野では、神奈川ダンプ支部が対前年比15%以上の純増（22人）を達して、沖縄ダンプ支部、沖縄県本部とともに最優秀賞を獲得しました。表彰式にはダンプ支



表彰後記念写真での齋藤代議員（中央）

部の代理として神奈川県本部の齋藤健人代議員が壇上に上がり、角田委員長から表彰状と副賞を受け取りました。

その他、優秀賞（年間10%以上の純増）2組織、準優秀賞（同5%以上純増）3組織、年間50人以上の拡大7組織が表彰され、昨年を大きく上回る組織が表彰を受けました。来年の大会では神奈川県南支部も表彰を受けられるように全分会でいまから頑張りましょう。

春闘アンケートなどの秋年末闘争を直ちに

建交労は、第19回全国定期大会を経て直ちに2017年秋季年末闘争に入りました。神奈川県南支部は県本部（10月22日）や支部（10月29日）の定期大会を待つことなく中央本部の大会決定にもとづく秋季年末闘争を展開することです。

まずは、近日中に中央本部から送られてくる「春闘アンケート」をすべての分会へ早期に手渡して県本部や支部の定期大会までに全組合員から集約しきることです。個々の大会待ちでは中央の春闘討論集会に組合員の要求を反映できません。

また、秋の組合員拡大月間を中心とする組織拡大運動に全力をあげましょう。県南支部の大会まで昨年の大会方針に掲げた拡大目標達成を追求しましょう。

建交労手帳2018年版の注文は支部に集中を

建交労中央本部は、来年2018年版の建交労手帳の注文受付をはじめます（別紙）。神奈川県南支部は、分会ごとの注文をまとめて中央本部に報告しますので、各分会は早めに注文数を支部に連絡していただくようお願いします。



被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、 核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、 すべての国に求めます。

人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ました。それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

よびかけ被爆者代表：坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三（以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員）、田中熙巳（日本被団協・事務局長）、郭貴勲（韓国原爆被害者協会・名誉会長）、向井司（北米原爆被害者の会・会長）、森田隆（ブラジル被爆者平和協会・会長）、サーロー・セツコ（カナダ在住）、山下泰昭（メキシコ在住）

私は被爆者の訴えに賛同して署名します

名 前	住 所	募金

ご記入いただいたお名前や住所など個人情報は、この要請目的以外には使用しません。みなさんの署名は、毎年の国連総会に提出いたします。

【取扱団体】

原水爆禁止日本協議会

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4 ☎03-5842-6031

--